

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人 千葉工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	31		62	93	13	
	機械電子創成工学科	夜・通信		45	76	13		
	先端材料工学科	夜・通信		70	101	13		
	電気電子工学科	夜・通信		27	58	13		
	情報通信システム工学科	夜・通信		37	68	13		
	応用化学科	夜・通信		37	68	13		
創造工学部	建築学科	夜・通信		51	82	13		
	都市環境工学科	夜・通信		41	72	13		
	デザイン科学科	夜・通信		68	99	13		
先進工学部	未来ロボティクス学科	夜・通信		62	93	13		
	生命科学科	夜・通信		72	103	13		
	知能メディア工学科	夜・通信		66	97	13		
情報科学部	情報工学科	夜・通信		55	86	13		
	情報ネットワーク学科	夜・通信	39	70	13			
社会システム科学部	経営情報科学科	夜・通信	39	70	13			

	プロジェクト マネジメント学科	夜・ 通信			59	90	13	
	金融・経営リスク科学科	夜・ 通信			45	76	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

千葉工業大学ホームページ上で公開しているシラバス検索ページのキーワードで「実務経験」と入力することにより科目一覧が表示される。
<https://portal.it-chiba.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人 千葉工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/staff/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2020.1.18 ～ 2024.1.17	法人運営に 係る全般
非常勤	株式会社役員	2020.1.18 ～ 2024.1.17	法人運営に 係る全般
(備考) 学外理事は6名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人 千葉工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>開講する全科目について以下の項目を必須事項としたシラバスを作成している。また、作成にあたっては、全教員に「シラバス作成要領」を配付すると共に、執筆者以外の教員が観点別チェックを行う「第三者チェック」を行ったうえで、公開することとしている。</p> <p>また、公開にあたっては、学生のみならず学外者も閲覧可能となるよう大学のホームページにシラバス検索ページを設置している。(作成完了は前年度2月末、公開は3月上旬)</p> <p>[シラバス作成上の必須項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の目的(アクティブラーニングの要素が授業内容に含まれる場合には、該当項目にチェックする。例:グループワーク、討論、プレゼン、フィールドワーク、演習・実験など) ・注意事項・学習アドバイス ・到達目標 ・評価基準(多面的な観点で評価されるよう評価項目と評価の割合を記入する。) ・各回の授業タイトル、授業内容、事前事後学習内容(事前事後学習内容には学習に要する時間も記入する。) <p>※実務経験のある教員による授業科目については、「実務経験の種類と授業への活用状況」を記入要領に明記し、該当する場合には、必ずシラバスに記入するようにしている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>千葉工業大学ホームページ シラバス検索ページ</p> <p>https://portal.it-chiba.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績評価及び単位の認定等については、全ての学部で「履修規程」を制定し、適正に管理している。

なお、科目毎の評価基準については、全ての科目でシラバスを作成しており、「評価基準」の項目で示している。学生には授業第1回目において担当教員から当該シラバスを配付し、必ず評価基準も説明することとしている。また、この評価基準も教員には多面的な観点から設定するようシラバス作成要領に示しており、評価の項目と評価の割合を記入する形式になっている。

[単位授与及び成績の評価 (各学部履修規程第10条)]

第10条 授業科目を履修し、その試験等により合格と判定された者には、所定の単位を与える

評価区分	表示希望	評価
100点～90点	S	合格
89点～80点	A	合格 (但し、成績証明書においては、100点～80点)
79点～70点	B	合格
69点～60点	C	合格
59点以下	D	不合格

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生の成績を総合的に評価するための値として、全ての学部で「履修規程」上に成績評価の評点区分に基づき全学期の平均点となる「累積GPA」及び当該学期における平均点となる「セメスターGPA」を算出し、適切な履修指導及び進路指導を行うために使用することを規定している。成績評価及び単位の認定等については、全ての学部で「履修規程」を制定し、適正に管理している。(学生には学部・学年毎に全体のGPA分布と中央値を公表して、全体における成績の位置付けが明確になるよう指導している。)

[GPAの計算方法]

(1) セメスターGPAの計算方法

(当該セメスターの評価S、A、B、Cの科目の合計単位数をそれぞれs、a、b、cとし、履修登録科目の合計単位数(不合格の科目の単位数を含む)をnとするとき

$$\text{セメスターGPA} = 4s + 3a + 2b + c / n$$

(2) 累積GPAの計算方法

(第1セメスターから当該セメスターまでの評価S、A、B、Cの科目の累積合計単位数をそれぞれσ、α、β、γとし、履修登録科目の累積合計単位数(不合格の科目の単位数を含む)をNとするとき

$$\text{累積GPA} = 4\sigma + 3\alpha + 2\beta + \gamma / N$$

[単位授与及び成績の評価 (各学部履修規程第10条第2項)]

第10条第2項 授業科目の成績評価及びGPAポイントは、次の評点区分に基づき行う。但し、S評価については、GPAポイントの運用上で必要な成績評価として、学内のみで使用するものとする。

評価区分	表示希望	GPAポイント
100点～90点	S	4
89点～80点	A	3
79点～70点	B	2
69点～60点	C	1
59点以下	D	0

客観的な指標の
算出方法の公表方法

千葉工業大学ホームページ 履修・修学について
https://kmsk.is.it-chiba.ac.jp/portal/eng/common_2021/study_2021.pdf

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」を基軸として、全学的な教育理念を設定すると共に、それらを踏まえて全学部・学科においてディプロマ・ポリシーを設定している。また、全学部のディプロマ・ポリシーには、「学生が卒業時点において身に付けるべき能力」を観点別に示すと共に、その前段ではカリキュラム上で定める所定単位として教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上の合計 124 単位以上を修得することを定めている。更に、カリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める能力の到達度評価方針として、学部共通的に以下のとおり定めている。(これらに加えて、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。)</p> <p>[能力達成度の評価方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての必修科目を修得すること。 ・コミュニケーションスキル分野で 6 単位以上を取得すること。 ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から 2 単位以上を取得すること。 ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群 1 から 6 単位以上、学部指定科目群 2 から 4 単位以上を取得すること。 ・教養特別科目分野から 1 単位以上を取得すること。 ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から 2 単位以上を取得すること。 <p>加えて、各学部・学科のディプロマ・ポリシーの達成度（学生の学修成果）の評価方針と具体的な評価方法（アセスメント・ポリシー）を全学的に定め、「機関レベル」、「教育課程レベル」、「科目レベル」で評価し、定期的に改善することとしている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>千葉工業大学ホームページで学部別に公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学部 https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/eng/ ・創造工学部 https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/cre/ ・先進工学部 https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/ae/ ・情報科学部 https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/info/ ・社会システム科学部 https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/social/ ・アセスメント・ポリシー https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/assessment_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人 千葉工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/circumstances/
収支計算書又は損益計算書	https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/circumstances/
財産目録	https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/circumstances/
事業報告書	https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/report/
監事による監査報告(書)	https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/circumstances/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/evaluation/inspection/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/evaluation/jiheer/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/purpose/) (概要) 工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、専門知識を応用する工学分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/eng/) (概要) 工学部は、社会ならびに産業界の工学分野およびその学際領域において、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材の育成を目的とし、卒業時点で学生が身につけるべき以下の 6 項目の能力を定め、これらの能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位 (教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上、合計 124 単位以上) の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士 (工学) を授与する。 [工学部の学生が卒業時点において身につけるべき能力] (1) 自然科学に関する基礎学力に裏付けられた工学分野での専門基礎知識と基礎技術を有し、技術者として必要な教養を身につけている。 (2) 問題解決に必要な専門知識や技術を修得するため、自ら継続的に学習する能力を身につけている。 (3) 専門知識を活用して工学的な観点から問題解決する能力を身につけている。 (4) 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。 (5) グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆく能力を身につけている。 (6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/eng/) (概要) 工学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における 6 項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。 [教育課程編成の基本方針] 厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。 [教育課程編成における具体的方針] (1) 自然科学に関する基礎学力に裏付けられた工学分野での専門基礎知識と基礎技術を有し、工学の各専門分野のものづくりやシステムづくりに活用できるように、科目群ごとに学修目標を設定し演習科目を効果的に配置する。 (2) 自ら継続的に学習することができるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を

必修科目に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において主体的な学びの場を提供する。

(3) 専門知識を活用して工学的な観点から問題解決ができるように、学修の初期段階に課題探究セミナーを置き、その後に実験・演習・実習・ゼミナールなど課題解決型の科目を適切に配置する。

(4) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語ならびに英語で情報を伝達できるように、実践的な日本語・英語スキルを高める科目を設置する。

(5) グループでの共同作業を計画的にかつ適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆくことができるように協同学習の場を提供する。

(6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解できるように、技術者倫理に関する科目を配置すると共に、各専門科目においても倫理性・社会的責任を意識させる。

[能力到達度の評価方針]

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・全ての必修科目を修得すること。
- ・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。
- ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。
- ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/admissions/nyushi/policy/>)

(概要)

工学部は、社会とりわけ産業界の工学分野および工学の研究領域において、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材を育成します。その人材の資質とは、自然科学の基礎学力に裏付けられた工学分野の専門知識と基礎技術を有し、技術者として必要な教養を身につけていることです。学んだ専門知識と技術を活用して工学的観点から問題を解決する能力を身につけていること、さらに自ら継続的に学習する姿勢を持つことも必要です。また、思考・判断のプロセスを説明するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、協力関係をつくり上げていく能力もなくてはなりません。それらを形成するとともに、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。

[求める学生像]

- (1) 理数系科目の基礎学力を身につけている人
- (2) わが国を支える工学の基盤分野に挑む意欲を持った人
- (3) 工学分野のものづくりやシステムづくりに興味がある人

学部等名 創造工学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/purpose/>)

<p>(概要)</p> <p>創造工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、創造性を要する工学分野およびその学際的領域において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/cre/)</p>
<p>(概要)</p> <p>創造工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、創造性を要する工学分野およびその学際的領域において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。そのために、以下の6項目の卒業時点で学生が身に付けるべき能力を定める。これらの能力の獲得とカリキュラムで定める所定単位(教養科目36単位以上、専門科目88単位以上または84単位以上、合計124単位以上)の取得をもって人材像の達成とみなし、学士(工学)を授与する。</p> <p>[創造工学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人文科学・社会科学・自然科学の主要分野の基盤となる教養を身につけ、それらを創造工学に関する知識・技能に結び付けて考える能力を身につけている。 (2) 課題解決に必要な基礎的な専門知識・技能を修得するため、自ら恒常的に学習する習慣とそのために必要な能力を身につけている。 (3) 技術・計画・設計やデザインの融合による創造工学に関する基礎的な知識・技能と提案力を身につけている。 (4) 自らの思考・判断のプロセスを論理的に説明し、伝達するためのプレゼンテーションの基礎的能力、さらにそれらをグローバルな局面で創造的に活用できる能力を身につけている。 (5) グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆくコミュニケーションの基礎的能力を身につけている。 (6) 専門技術者として守るべき倫理と負うべき社会的責任を理解している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/cre/)</p>
<p>(概要)</p> <p>創造工学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における6項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。</p> <p>[教育課程編成の基本方針]</p> <p>厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。</p> <p>[教育課程編成における具体的方針]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人文科学・社会科学・自然科学の主要分野の基盤となる教養を身につけ、それらを創造工学に関する知識・技能に結び付けて考える能力を身につけることができるように科目群ごとに学修目標を設定し演習科目を効果的に配置する。 (2) 課題解決に必要な専門知識や技術を恒常的に修得し続けることができるようにする主体的な学びの場を提供し、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修科目に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群で学習し続ける意欲と態度を習慣とさせる。

(3) 技術・計画・設計やデザインの融合による創造工学に関する基礎的な知識・技能を体得させ、ものづくり・仕組みづくり・空間づくり・都市づくり・国土づくりに活用できるようにするため、工学的な基礎科目群と計画・設計やデザインの専門科目群の下で演習を多用するコアカリキュラムを展開する。また、汎用的技能養成と創造的視点からの提案力強化を主眼として卒業研究または卒業設計・卒業製作を位置づける。

(4) 図的表現と言語表現の双方を用いて専門的な情報を明晰に伝達・説明できるようにし、グローバルな局面でも基本的なコミュニケーションを可能にさせる。そのために、図的表現力を育む科目と論理的思考力・明解な表現力を高める日本語科目、実用的な英語スキルを得る科目を配置する。

(5) 個人の作業のみならず、共同作業と適切な協力関係を通じてグループで創造的な成果を得る経験を積ませる。そのため、低学年に課題探究セミナーを配置し、専門科目の演習科目ではグループ単位に総合的・創造的な課題を課して、テーマやプロセス、成果を共有できるように科目を配置する。

(6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解させ、遵守できるようにする。そのため、学内でのモラル教育と各科目でのルール遵守を徹底し、学修の過程の中で社会的ルールを守ることが習慣化させる。また、技術者倫理に関する科目を配置する。

[能力到達度の評価方針]

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・全ての必修科目を修得すること。
- ・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。
- ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。
- ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/admissions/nyushi/policy/>)

(概要)

創造工学部は、都市計画、建築・空間設計、インテリア設計、製品デザインなど、創造性を要する工学分野及びその学際的領域において世界文化に貢献する人材を育成します。その人材の資質とは、技術・計画・設計やデザインの融合による創造工学に関する基礎的な知識・技能と提案力を持っていることだと考えています。人文科学・社会科学・自然科学の主要分野の基盤となる教養を身につけ、それらを創造工学に関する知識・技能に結び付けて考える能力も必要です。将来、課題解決に必要な基礎的な専門知識・技能を修得するため、自ら恒常的に学習する習慣も欠かせません。また、思考・判断のプロセスを論理的に説明するためのプレゼンテーション能力、さらにそれらをグローバルな局面で創造的に活用できる能力、グループでの共同作業を適確に実行し、協力関係をつくり上げていくコミュニケーション能力も重視しています。それらを形成するとともに、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。

[求める学生像]

- (1) 理数系科目の基礎学力を身につけている人
- (2) 技術・計画・設計やデザインの融合による、創造的な工学領域に興味がある人
- (3) ものづくり・仕組みづくり・空間づくり・都市づくりにおいて、創造力にあふれた新

しいデザインを提案したいと望む人

学部等名 先進工学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/purpose/) (概要) 先進工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、科学技術における先進的な分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/ae/) (概要) 先進工学部は、人間の生活における利便性を向上させ、工学分野における先進的な領域を開拓していく学際領域で、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材を育成することを目的とし、以下のとおり5項目の卒業時点で学生が身に付けるべき能力を定め、これら能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位(教養科目36単位以上、専門科目88単位以上、合計124単位以上)の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士(工学)を授与する。 [先進工学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力] (1) 工学分野での基礎的な知識と技術を有し、それを先進的領域や学際領域に応用する能力を身につけている。 (2) 課題解決に必要な専門的知識や技術を修得するため、自ら継続的・論理的に学習する能力を身につけている。 (3) 科学技術の進歩やグローバル化など、時代の変化に応じた視野と総合的な知識や技術を応用して課題解決を図る能力を備えている。 (4) 自らの思考や判断のプロセスを論理的に説明できるプレゼンテーション能力、他者とのコミュニケーション能力、グループでの共同作業においてチームワークやリーダーシップを発揮し、実行できる能力を身につけている。 (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/ae/) (概要) 先進工学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における5項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。 [教育課程編成の基本方針] 厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。

[教育課程編成における具体的方針]

- (1) 工学分野での基礎的な知識と技術を有し、それを先進的領域や学際領域に応用できるように、共通教養科目と専門基礎科目、学科別コアカリキュラムに基づく専門科目を体系的に配置する。
- (2) 自ら継続的・論理的に学習できるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において、主体的な学びの場を提供する。
- (3) 生命科学・ロボティクス・知能メディア工学の各領域における先進的で高度な知識と技能を身に付けるための演習科目と、自発的な取り組みを誘発するための課題探究セミナーを配置し、更に専門知識や技術を最大限応用することを主眼とした卒業研究を配置する。
- (4) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語と英語によるコミュニケーションができるようにするための実践的な日本語・英語科目、およびグループでの共同作業が的確に実行でき、他者との適切な協力関係を作り上げるための協同学習を行う科目を設ける。
- (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解しそれを遵守できるように、技術者倫理に関する科目を配置し、各専門科目においても倫理性や社会的責任を意識させる。

[能力到達度の評価方針]

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・全ての必修科目を修得すること。
- ・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。
- ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。
- ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/admissions/nyushi/policy/>)

(概要)

先進工学部は、人間の生活における利便性を向上させ、工学分野における先進的な領域を開拓していく学際領域で、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材を育成します。その人材の資質とは、工学分野での基礎的な知識と技術を有し、それを先進的領域や学際領域に応用する能力を身につけていることだと考えています。課題解決に必要な専門的知識や技術を修得するため、自ら継続的・論理的に学習する姿勢を持つことも必要です。また、科学技術の進歩やグローバル化等、時代の変化に応じた視野と総合的な知識や技術を応用して課題解決を図る能力も備えていなければなりません。自らの思考や判断のプロセスを論理的に説明できるプレゼンテーション能力、他者とのコミュニケーション能力、グループでの共同作業においてチームワークやリーダーシップを発揮し、実行できる能力を身につけていることも重要です。それらを形成したうえで、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。

[求める学生像]

- (1) 理数系科目の基礎学力を身につけている人
- (2) 工学の先進的領域や学際領域を学びたいという動機と意志を持った人
- (3) 特に生命科学・ロボティクス・知能メディア工学に強い興味がある人

学部等名 情報科学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/purpose/)</p>
<p>(概要) 情報科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として社会の変化と進展に対応し、また、守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報処理分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/info/)</p>
<p>(概要) 情報科学部は、情報システム、ネットワーク、メディア処理などの多様な情報処理分野において、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材を育成することを目的とし、以下の 5 項目の卒業時点で学生が身に付けるべき能力を定め、これら能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位（教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上、合計 124 単位以上）の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士（情報科学）を授与する。</p> <p>[情報科学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力]</p> <p>(1) 情報科学分野での基礎的な知識と技術を有し、理論的手法に基づいた思考を涵養することで、それを多様な情報処理分野に応用する能力を身につけている。</p> <p>(2) 課題解決に必要な専門的知識や技術を修得するため、自ら継続的・論理的に学習する能力を身につけている。</p> <p>(3) 科学技術の進歩やグローバル化など、社会の変化と進展に対応出来る幅広い知識を修得し、自ら問題解決策を見出す能力を備えている。</p> <p>(4) 自らの思考や判断のプロセスを論理的に説明できるプレゼンテーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係を作り上げてゆくコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>(5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/info/)</p>
<p>(概要) 情報科学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における 5 項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。</p> <p>[教育課程編成の基本方針] 厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。</p> <p>[教育課程編成における具体的方針] (1) 基盤となる教養と基礎的な専門知識・技術を応用し、情報科学分野に活用できるように、共通教養科目と専門基礎・専門科目を体系的に配置する。</p> <p>(2) 自ら継続的・論理的に学習できるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において、主体的な学びの場を提供する。</p> <p>(3) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語と英語によるコミュニケーションができるように、実践的な日本語・英語の能力を高める科目を配置する。また、国際感覚を習慣</p>

的に意識づけるために専門科目内にも英語科目を配置する。

(4) グループでの共同作業が的確に実行できるよう、初期段階から課題探究セミナーを配置し、更に後続する専門科目内に効果的に演習科目を配置すると共にゼミナールなど共同学習の場を設ける。

(5) 情報系技術者やネットワーク系技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解しそれを遵守できるように、技術者倫理に関する科目を配置する。

[能力到達度の評価方針]

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・全ての必修科目を修得すること。
- ・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。
- ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。
- ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/admissions/nyushi/policy/>)

(概要)

情報科学部は、情報システム、ネットワーク、メディア処理等、多様な情報処理分野において、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材を育成します。その人材の資質とは、情報科学分野の基礎的な知識と技術を有し、確かな理論に基づいて応用できることだと考えています。高度情報化とグローバル化が進展し続ける中で、情報処理分野の新たな課題に対し、自ら問題解決策を見出す能力が求められます。そのためには、学んだ専門的知識や技術を基に、さらに自ら継続的・論理的に学習する姿勢を持つことが必要です。また、思考・判断のプロセスを説明するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、協力関係をつくり上げていく能力もなくてはなりません。それらを形成するとともに、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。

[求める学生像]

- (1) 情報システム、ネットワーク、メディア処理等、情報処理の技術に興味のある人
- (2) 社会の様々な課題に情報処理の技術で貢献したい人
- (3) 変化の激しい情報処理分野で継続的に技術を身につける強い意志を持った人

学部等名 社会システム科学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/purpose/>)

(概要)

社会システム科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、分野横断的な学問領域を基礎とし、社会システムやマネジメント手法の分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法 : <https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/social/>)

(概要)

社会システム科学部は、システム科学、経営工学、社会科学、情報工学等の分野横断的な学問領域で、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材を育成することを目的とし、以下のとおり 5 項目の卒業時点で学生が身に付けるべき能力を定め、これら能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位（教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上、合計 124 単位以上）の取得をもって、人材像の達成とみなし、学科により学士（経営情報科学）、学士（プロジェクトマネジメント）、学士（リスク科学）を授与する。

[社会システム科学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力]

- (1) 社会システムやマネジメント問題を分析・評価・管理するために必要な基礎的知識と、専門知識や技術を総合的に応用し、人的資源、物的資源、財政資源（資金）、技術・情報資源を効果的に活用して、問題を解決する基礎能力を身につけている。
- (2) 問題解決に必要な専門知識や技術を修得するため、自ら継続的に学習することができる。
- (3) 国内外の技術的情報を収集・活用できるとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。
- (4) グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆくコミュニケーションの基礎的能力を身につけている。
- (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 : <https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/social/>)

(概要)

社会システム科学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における 5 項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。

[教育課程編成の基本方針]

厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。

[教育課程編成における具体的方針]

- (1) 基盤となる教養と基礎的な専門知識・技術を応用し、チームワークやリーダーシップを意識した問題解決ができるように、共通教養科目と専門基礎・専門科目を体系的に配置し、専門科目内にはグループ学習や学外インターンシップやフィールドワークなど、よりアクティブな行動を促す科目を配置する。
- (2) 自ら継続的・論理的に学習できるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において、主体的な学びの場を提供する。
- (3) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語と英語によるコミュニケーションができるように、実践的な日本語・英語能力を高める科目を配置する。また、他者との建設的な討論や議論ができ、グローバルな環境でもプロジェクトを主導的に進めることができるよう、効果的な演習科目や一部学科では海外研修を行う科目を配置する。
- (4) グループによる共同作業により適切な問題解決が図れるよう、初期段階から課題探究セミナーやグループ演習を配置し、更に後続する専門科目内には効果的に演習科目・ゼミナールを配置して共同学習の場を設ける。
- (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、それを遵守できるように、技術者倫理に関する科目を配置する。

〔能力到達度の評価方針〕

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・全ての必修科目を修得すること。
- ・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。
- ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。
- ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/admissions/nyushi/policy/>)

(概要)

社会システム科学部は、システム科学、経営工学、社会科学、情報工学等の分野横断的な学問領域で、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材を育成します。その人材の資質とは、社会システムやマネジメント問題を分析・評価・管理するために必要な基礎的知識と、専門知識や技術を総合的に応用し、人的資源、物的資源、財政資源(資金)、技術・情報資源を効果的に活用して問題を解決する基礎能力を身につけていることだと考えています。また、問題解決に必要な専門知識や技術を修得するため、自ら継続的に学習する姿勢を持つことも必要です。国内外の技術的情報を収集・活用するとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、協力関係をつくり上げていく能力もなくてはなりません。それらを形成したうえで、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/disclosure/law/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
工学部	—	63人	27人	0人	9人	0人	99人
創造工学部		34人	11人	0人	3人	0人	48人
先進工学部		28人	12人	0人	3人	0人	43人
情報科学部		21人	11人	0人	5人	1人	38人
社会システム科学部	—	28人	10人	0人	5人	0人	43人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		253人					253人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.lib.it-chiba.ac.jp/cithp/KgApp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD委員会を中心として、授業アンケートに基づく全教員への授業点検書（義務化）の作成依頼と集計・分析、学内研修会やFDフォーラムを実施している。また、学生FD委員を任命し、授業改善を主目的とした活動を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	720人	843人	117.1%	2,880人	3,375人	117.2%	欠員の範囲	15人
創造工学部	370人	458人	123.8%	1,480人	1,731人	117.0%	欠員の範囲	9人
先進工学部	340人	404人	118.8%	1,360人	1,608人	118.2%	欠員の範囲	13人
情報科学部	280人	332人	118.6%	1,120人	1,335人	119.2%	欠員の範囲	6人
社会システム科学部	280人	328人	117.1%	1,120人	1,283人	114.6%	欠員の範囲	0人
合計	1,990人	2,365人	118.8%	7,960人	9,332人	117.2%	欠員の範囲	43人
(備考) 工学部の在学生数には、平成28年4月から募集を停止している工学部旧学科の在学生数も含む。（工学部電気電子情報工学科）								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	810人 (100%)	213人 (26.3%)	571人 (70.5%)	26人 (3.2%)
創造工学部	395人 (100%)	66人 (16.7%)	308人 (78.0%)	21人 (5.3%)
先進工学部	363人 (100%)	90人 (24.8%)	262人 (72.2%)	11人 (3.0%)
情報科学部	279人 (100%)	49人 (17.6%)	207人 (74.2%)	23人 (8.2%)
社会システム科学部	304人 (100%)	10人 (3.3%)	273人 (89.8%)	21人 (6.9%)
合計	2,151人 (100%)	428人 (19.9%)	1,621人 (75.4%)	102人 (4.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 千葉工業大学大学院、千葉市役所、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立製作所、富士電機(株) 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>開講する全科目について以下の項目を必須事項としたシラバスを作成している。また、作成にあたっては、全教員に「シラバス作成要領」を配付すると共に、執筆者以外の教員が観点別チェックを行う「第三者チェック」を行ったうえで、公開することとしている。</p> <p>また、公開にあたっては、学生のみならず学外者も閲覧可能となるよう大学のホームページにシラバス検索ページを設置している。(作成完了は前年度2月末、公開は3月上旬)</p> <p>[シラバス作成上の必須項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の目的(アクティブラーニングの要素が授業内容に含まれる場合には、該当項目にチェックする。例：グループワーク、討論、プレゼン、フィールドワーク、演習・実験など)

<ul style="list-style-type: none"> ・注意事項・学習アドバイス ・到達目標 ・評価基準（多面的な観点で評価されるよう評価項目と評価の割合を記入する。） ・各回の授業タイトル、授業内容、事前事後学習内容（事前事後学習内容には学習に要する時間も記入する。） <p>※実務経験のある教員による授業科目については、「実務経験の種類と授業への活用状況」を記入要領に明記し、該当する場合には、必ずシラバスに記入するようにしている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」を基軸として、全学的な教育理念を設定すると共に、それらを踏まえて全学部・学科においてディプロマ・ポリシーを設定している。また、全学部のディプロマ・ポリシーには、「学生が卒業時点において身に付けるべき能力」を観点別に示すと共に、その前段ではカリキュラム上で定める所定単位として教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上の合計 124 単位以上を修得することを定めている。更に、カリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める能力の到達度評価方針として、学部共通的に以下のとおり定めている。（これらに加えて、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。）</p> <p>[能力達成度の評価方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての必修科目を修得すること。 ・コミュニケーションスキル分野で 6 単位以上を取得すること。 ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から 2 単位以上を取得すること。 ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群 1 から 6 単位以上、学部指定科目群 2 から 4 単位以上を取得すること。 ・教養特別科目分野から 1 単位以上を取得すること。 ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から 2 単位以上を取得すること。 				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	機械工学科	124 単位	有	40 単位
	機械電子創成工学科	124 単位	有	40 単位
	先端材料工学科	124 単位	有	40 単位
	電気電子工学科	124 単位	有	40 単位
	情報通信システム工学科	124 単位	有	40 単位
	応用化学科	124 単位	有	40 単位
創造工学部	建築学科	124 単位	有	40 単位
	都市環境工学科	124 単位	有	40 単位
	デザイン科学科	124 単位	有	40 単位
先進工学部	未来ロボティクス学科	124 単位	有	40 単位
	生命科学科	124 単位	有	40 単位
	知能メディア工学科	124 単位	有	40 単位
情報科学部	情報工学科	124 単位	有	40 単位
	情報ネットワーク学科	124 単位	有	40 単位
社会システム科学部	経営情報科学科	124 単位	有	48 単位
	プロジェクトマネジメント学科	124 単位	有	48 単位
	金融・経営リスク科	124 単位	有	48 単位

	学科		
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：学生に所属学部・学年のGPA分布と中央値を公表し、全体的な成績の位置付けが明確になるよう指導している。（学生のみ公表している。）	
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：学生生活アンケートの集計結果をホームページで公表している。 https://www.it-chiba.ac.jp/media/2018annnketo33o.pdf	

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/disclosure/law/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部 2019年度 入学生から 金額改定	全学科1年	1,390,000円	250,000円	200,000円	休学時は授業料に替えて在籍料100,000円(半期毎)を徴収
	全学科2年	1,440,000円	円	200,000円	休学時は授業料に替えて在籍料100,000円(半期毎)を徴収
	全学科3年	1,490,000円	円	200,000円	休学時は授業料に替えて在籍料100,000円(半期毎)を徴収
	全学科4年	1,540,000円	円	200,000円	休学時は授業料に替えて在籍料100,000円(半期毎)を徴収
全学部 改定前	全学科4年	1,440,000円	円	200,000円	休学時は授業料に替えて在籍料100,000円(半期毎)を徴収

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>[学生サポートセンター]</p> <p>理工系科目を学ぶ上で欠かせない数学・物理・化学・英語の基礎学力をサポートするため、専門講師が常駐する学生サポートセンターを開設し、高校のレベルの基礎学力、授業内容に関する質問、一層の学力アップなど、各個人のニーズに合わせた個別指導を行っている。</p> <p>開設状況：月から金 10時から18時まで（新習志野キャンパス10号館1階）</p> <p>また、学生サポートセンターでの修学支援に加えて、上級生が履修の仕方や学修方法など、キャンパスライフに関わる様々な相談に応じる学生サポーター（SA）を設置している。</p> <p>[グローバルラウンジ]</p> <p>グローバル社会で求められる英語コミュニケーション力を高めるには、知識だけでなく実際に活用して体験することが重要であるため、外国人教員が常駐し、気軽な雰囲気の中で英語コミュニケーションを体験する自立学習施設「グローバルラウンジ」を開設している。</p> <p>開設状況：月から金 10時から18時まで（新習志野キャンパス10号館2階）</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>指導教員と全学的組織である就職委員会および就職・進路支援部が三位一体となって進路支援を行っています。学生自身が主体性を持って自ら意思決定や判断で進路や職業選択が出来るよう1年次と3年次に必修科目として「キャリアデザイン」を開設している他、インターンシップを単位化し、キャリア教育の一環として位置付けています。また、対面とWebを融合させた「仕事研究セミナー」や「オンライン面接対策講座」、相談から添削や面接まで</p>

一つの会場でトータルに支援する「キャリア支援フェア」など、多岐にわたる支援を行いました。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

- ・学生相談室、専任カウンセラー設置、Web相談を導入
- ・教職員への学生支援講演会開催（年1回）
- ・障がい学生支援規程、教職員対応マニュアルの整備及び公開
- ・入学時にカウンセラー及び保健師による保護者相談会を実施
- ・校医及び保健師との面談実施（健康相談含む）
- ・緊急時の医療機関受診付添い
- ・要配慮の学生及び保護者と関係教職員との面談実施
⇒配慮事項を確認後、科目担当者等へ配慮要請
- ・車いす専用駐車場、エレベーター等の施設

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.it-chiba.ac.jp/disclosure/law/>